

【国宝】江田船山古墳出土の銅鏡6面

☎ 社会教育課 文化係
☎0968・34・3047

明治6年（1873年）1月、江田船山古墳から石棺が発掘され、石棺の中から数々の貴重な副葬品が発見されました。現在は国宝に指定され、東京国立博物館の平成館で常設展示されています。

今回は、副葬品の中から銅鏡6面について少し詳しく説明します。

江田船山古墳から出土した銅鏡6面のうち、5面は中国で製造された鏡、1面は倭（日本）で製造された鏡です。中国鏡5面は南朝宋代に製造された踏返鏡と呼ばれるもので、そのうちの4面と同型の鏡が全国から多数出土し、北は栃木県から南は宮崎県まで、とても広い範囲にわたっています。このことは、同型鏡が出土した全国各地の古墳と江田船山古墳が何らかの関係があったことがうかがえ、江田船山古墳出土の6面の銅鏡がきわめて重要な考古資料であることがわかります。

※踏返鏡…すでに存在した鏡を原型に踏み返された、二次的に鋳型から作られた鏡のこと。



「神人馬車画像鏡」

【江田船山古墳出土の銅鏡6面】

「神人馬車画像鏡」中国鏡、同型鏡が2面出土（福岡県・京都府）。

「画文帯同行式神獣鏡」中国鏡、同型鏡が3面出土（愛媛県・兵庫県・出土地不詳）。

「画文帯対置式神獣鏡」中国鏡、同型鏡が25面出土（関東・関西・中国・九州各地）。

「半肉彫獣帯鏡」中国鏡、同型鏡が8面出土（阿蘇市・宇城市・宮崎県・福岡県・香川県・岡山県・奈良県・栃木県）。

「画文帯環状乳神獣鏡」中国鏡、同型鏡なし。

「獣形鏡」倭鏡（日本製）、同型鏡なし。

旬のものを簡単アレンジ 「がね飯」

☎ 健康福祉課 保健予防係
☎0968・86・5724



【材料（4人分量）】

米……………3合
川がに……………4匹
こんにゃく……………1/4枚
大根……………80g
人参……………50g
ごぼう……………40g
しょうゆ……………大さじ2
酒……………大さじ1
塩……………適量

【作り方】

- ① 米は洗ってザルにあげ、30分位おく。
- ② かにはタワシでよく洗い、毛のついた親爪（ハサミ）は両方切り落とす。ハカマをとって甲羅をはずし、エラもとりのぞき身を二つに切る。
- ③ こんにゃくはゆでてたんざく切りにする。大根、人参もたんざく切りにする。ごぼうはささがきにして水につけザルにあげる。
- ④ 炊飯器に米を入れ、しょうゆ、酒、水を加えて普通の水加減にする。
- ⑤ ④にこんにゃく、大根、人参、ごぼうを入れた後に塩を加えて混ぜ、好みの塩加減にする。
- ⑥ 最後にかにをのせて、炊飯器のスイッチを入れる。
- ⑦ できあがったら軽く混ぜて器に盛り、かにを上のにせてかざる。

【がねの下処理】

・鍋に水を入れ、生きたままのかにを加え蓋をして、火にかける。かにがバタつくので蓋をおさえておく。色が変わらない程度でかにが静かになったら火を止めて、かにをたわしで良く洗う。（かには必ず水から入れ沸騰させない）

ひとくちメモ&栄養コメント

がね飯は、和水町の郷土料理の一つです。下処理の手間はかかりますが、かきの旨味がご飯に染み込んで美味しくいただけます。

文芸広場

かなしき原俳句会

空といふ青カンバスや鱗雲 誠一

琴線に触るる話や鳥渡る 貞子

トロ箱の秋刀魚に海の広がりぬ 明

沢音に足取軽し秋の山 康子

月光といふ一色の山河かな 弘子

肥後狂句

寄る年波 終活しと今のうち 福永すみれ

寄る年波 セーブせんでも減った酒 石原かわせみ

先はわからん 娑婆は予期せんこつばかり 池田 茜

先はわからん 回りの友が逝きはじめ 高木せいや

先はわからん 時の流れに生きて行こ 瀬上 歌子

秋だなあ 夜の読書に虫の声 井上りんどう

秋だなあ 赤トンボ達群れつくり 二瀬 桔梗

秋だなあ ウズウズしとる種袋 庄山 道草

菊水俳句会

コロナゆえ老いゆえさみし秋の声 池田 松子

友訪へば手折りてくれし小菊かな 中山ミサト

配達で股間冷たき秋の朝 嶋田 俊一

干し物の乾く速さや秋一日 宮中 康雄

和水町公民館図書室だより

☎ 中央公民館図書室 ☎0968・86・2022
三加和公民館図書室 ☎0968・34・3047

開館午前9時～午後10時（年末年始除く。） 1回につき1人5冊まで、2週間借りることができます。

11月11日は、「世界平和記念日」です。ドイツとアメリカ合衆国が停戦協定に調印し、4年余り続いた第一次世界大戦が終結したことを受け、大戦争を再び起こさないようにしようと設けられました。また、「世界平和記念日」であることと、「1」を4つ組み合わせると折り紙の形・正方形になることから「おりがみの日」にも制定されています。この記念日にちなんだ本を、今月は選んでみました。



「おりづるの旅 さらこの祈りをのせて」

著者：うみの しほ
出版社：PHP研究所
主人公のさらこが原爆にあったのは2才の時。戦争が終わって9年、元気に過ごしていたさらこが原爆症を発症したのは、小学6年生の冬休み。それからわずか1年後の冬、さらこは亡くなりました。広島平和記念公園にある「原爆の子の像」は、さらこの同級生たちの呼びかけでできたものです。世界のあちこちで今も争いが続いている現実…平和の大切さを考えるきっかけになればと思います。



「おぼえて おきたい！ 伝承おりがみ」

著者：山口 真
出版社：ポプラ社
平和のシンボルとして、世界中で有名な「おりづる」の折り方をはじめ、「かぶと」や「にそうぶね」「やっこさん」などの伝統的な折り方が、全編カラーで詳しく載っています。秋の夜長に、親子で折り紙…いかがですか？